

# 事業実施報告書

法人名 特定非営利活動法人 フードバンクいるま

事業名	地域のつながりをつくるフードパントリー事業
助成事業の種類	(1) SDGs 推進事業 ( 人間 豊かさ ■地球 平和 パートナシップ ) (2) 自立促進事業 ( 人間 豊かさ 地球 平和 パートナシップ )
1. 事業の目的	コロナ禍や円安による物価高で生活困窮に陥った人々の支援を行う事で地域のつながりをつくる。
2. 事業で取り組んだ地域や社会の課題	7 人に一人の世帯が相対的貧困と言われ生活に困窮している。その方々への支援が地域で出来ていない。
3. 取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	地域共生社会実現のために地域のつながりをつくる地域ミニパントリー（藤沢地区・豊岡地区を対象）を 11 月 18 日（土）におこなった。 利用者 76 世帯 233 人（子ども 146 人） 用意した食料品総量 1071.77kg 一般食品量 613.44kg パン量 38.33kg お米量 420.00kg フードバンクいるまを紹介するパネルを作成 パントリー時やイベントの時に利用させていただいております
4. 事業実施により達成した成果の具体的な内容	NPO 活動促進助成事業の期間前の 4 月におこなった地域パントリーでは利用者は 36 世帯であったが、11 月 18 日の地域ミニパントリーでは利用者が大きく増えた。フードバンクいるまのパントリー活動がより地域に知られ、地域につながるつくるパントリー活動の一步になっている。 藤沢、豊岡地区内での生活困窮している方の情報を社会福祉協議会や民生員、地区センターの協力を得てそれらの方にパントリーの情報を提供し、申し込んでもらった。普段の「フードパントリー茶いんど」と違い児童扶養手当受給者だけを対象にしていないので地域パントリーでは児童扶養手当受給者証の提示は必要としていません。そして引き続きの支援が必要な方には社会福祉協議会や地域包括センターから市の生活支援課につないでもらいます。地域で共に支え共に生きる共生社会実現の一步となっています。
5. 費用面での工夫	食料品を購入するのに同じ食品を多数必要だったので、あらかじめ注文し用意した。値段は安い品質は良い品であるイオンブランドの食品を購入した。パネルの作成については入間市内で一番安い印刷店を利用した
6. 地域社会への還元について	物価高で困っている地域の方々に勇気を与えることが出来た。この活動を知ってもらうことで、SDGs 等の社会貢献を考えている企業、団

	体の支援の受け入れ先になり、食を通してのセーフティーネットとして役割を果たし、誰をも見捨てない地域社会づくりに寄与している。
7. 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか	地域社会における大事な社会資源として、行政、ロータリークラブ工業会などに働きかけ、支援の輪を広げる。そして法人会員等を増やし、寄付金により財政の基盤を整えていきたい

域ミニパントリー活動写真



今回は助成金で塩、醤油、味噌味各種のラーメンをお渡しできました



助成金で購入したラーメンやお菓子などです。子ども達にとっても喜ばれました！



助成金で作成したフードバンクいるまのパネルです

# 事業収支計算書

法人名 特定非営利活動法人フードバンクいるま

## 1 収入の部

項 目	予算額 (円) A	決算額 (円) B	増減額 (円) B-A	備考
県助成希望額	430,000	401,000	-29,000	
自己資金	0	580	580	
事業実施による収入等	0	0	0	
その他	0	0	0	
合 計	430,000	401,580	-28,420	

## 2 支出の部

項目	予算額 (円) A	決算額 (円) B	増減額 (円) B-A	備考
会場費		0	0	
通信運搬費		0	0	
旅費交通費		0	0	
消耗品費	380,000	352,080	-27,920	
備品費		0	0	
委託費	50,000	49,500	-500	
謝金		0	0	
人件費		0	0	
その他		0	0	
合 計	430,000	401,580	-28,420	